



ワンマン・ワンベ이의作業風景



2015年に完成した本社工場

長嶺隆路社長

会社名：進和株式会社
 代表者：長嶺隆路社長
 現在地：千葉県山武郡松尾町蕪木 528-1
 TEL : 0476-85-6270
 URL : sinwa-bp.co.jp

2019年カレンダーには年間稼働日260日、休日105日と明示され、「どんなに忙しくてもこの休日カレンダーだけは崩さない」（長嶺社長）ことに徹している。有休も積極的に使うよう指導し、これによる有休消化率を8割に高めた。自らは寢食を忘れて朝まで作業することを当たり前としてきた世代。だが「今はそんな時代ではない。経営者が変わらなないと働く社員がづらい思いをするだけだ」（同）ときっぱり。年商2億2千万円の同社の業績を支える社員の給与や休日の待遇を厚くするためには「利益を減らしてでもやらなくてはならない」と語る。

（斉藤 匡）

**利益を減らしても
従業員の待遇を改善**

長嶺社長はこれまで、千葉県自動車車体整備協同組合の理事長を務めるなど、業界全体の向上にも力を注いできた。環境対応や修理精度にこだわった設備投資と同時に、働く社員の労働環境でも業界最高水準を実現しようとする活動が続ける。

その一例が、年間休日の完全実施と高い有給休暇消化率だ。同社は毎年の営業カレンダーをホームページに掲示して稼働日と休日を月ごとに分かりやすく示している。

工場ルポ

钣金塗装

高度な技術と先進的労働環境に注目

千葉県山武市
進和株式会社

BMW/MINI グループ正規指定工場の進和(長嶺隆路社長)は、最高水準の設備とメーカー指定の教育を受けたスタッフの高い技術力で関東地区でもトップクラスの評価を受ける。その先進性は社員の年間休日や給与体系にも反映され、全国の車体整備事業者の手本になっている

設立当初から信頼集める
際立った修理技術で

長嶺社長は、父親が経営していた自動車塗装工場で経験を積み技術を磨いた。1988年にBMW新車整備センターが千葉県山武市で稼働したのを機に、単身同センターで車体整備を請け負う会社の下請け技術者として北海道函館市から上京した。この時29歳。93年に進和の前身となる「ボディリペアーズ進和」を設立し独立した。

BMW新車整備センター勤務時代から際立った修理技能を発揮した長嶺社長。立ち上げた工場はBMW専門の钣金塗装サービスショップとして創業当初からBMWグループジャパンの信頼を集めた。



プレレーションシステムを導入した塗装ブース

その後、事業は順調に拡大し、2002年に成東工場を新築、2012年に進和株式会社組織変更している。2015年には現在地に本社工場を新築移転した。完成した新工場には長嶺社長がこだわり抜いた最新鋭の設備を惜しげなく導入。その工場施設を一目見ようと、全国から関係事業者が集まってくる。

世界最高水準の機器導入

工場の特徴は、高い作業品質をもたらすワンマン・ワンベ이의作業環境、作業者の安全衛生を守るための環境配慮型の現場、世界最高水準の環境負荷抑止型の塗装乾燥システムなどの導入だ。中でも板金工程ではフレーム修正機のグローバルジグ・インジョイベンチ・セレット、塗装工程では石油燃料を使わないオール電化乾燥システムのラプター塗装ブース、水性塗料の乾燥時間を大幅に短縮する400℃仕様のレボスピード乾燥機などが導入事例が少ないだけに注目度が高い。

こうした高度な設備と修理技術を両輪に、取引先もほぼ順調に拡大してきた。今ではBMWグループアジア

パン松尾VDCをはじめ、鴻池運輸、関東圏のBMWディーラーなど8社と取引関係を築き、大ダメージ車を中心に板金塗装だけで月80台の修理を手がけている。

最近ではBMWMINIにとどまらず、ヤナセのザ・ボディショップネットワーク山武としてメルセデス・ベンツなどにも拡大している。さらに、副工場長の中村美智男さんが、ヤナセオートシステムズ（江花辰実社長、東京都港区）が先ごろ開催した板金塗装技能コンテスト「三技祭2019」の塗装部門で優勝し、技術水準の高さを示した。



業界の常識を覆す床タイル張り